

世ニ有職紋トイフ。

又裝飾紋ハ家ノ紋章以外ニ之ヲ用フルヲ以テ古來タゞ紋ムダ紋等稱セシガ、コレヨリ轉ジテナリシ家紋モアリ。

織紋ハ織出シタル紋ニシテコレ又裝飾紋ナリ。

上天皇ヨリ下諸臣ノ初位ニ至ル衣袍ノ織紋ナリ。

古ハ親王以下ノ衣袍ハ染色ニテ衣階ノ分ヲ織紋ニハ制限ナカリシガ中古以後ニハ更ニ織紋ニモ定制出來タリ。

大臣以上ハコレニ家紋ヲ用フルコトヲ許サレタリ、カ、ル織紋ヨリモ轉ジテ、現今ノ紋ヲ生ゼリ畏レ多キコトナレドモ今皇室ノ御副紋章トナレル五七ノ桐ノ如キモ織紋ヨリ轉ジタルモノナリ、鶴ノ丸ノ紋章等其他其種類甚多シ武門ノ家ニハ幕紋旗紋ノ制アルニ及ビ、本宗支派ヲ分ツニ更ニ紋章ヲエラビ或ハ家ノ創意ニ出デタルモノアリ。

葵ノ御紋鶴ノ丸巴等其他ノ紋スベテ以上ノ所説ニヨリテ單ニ菊ノ御紋桐ノ御紋ト稱シテモソノ基ハ一定ナレドモ其變化シタルモノ無數ニシテ現今見ル如クアグルニイトマナシ。

最後ニ宗教ノ信念ヨリ出デタリト稱スルハ中央ニ十字架ノアル紋ニシテコレ又其種類無數ナレドモ總稱シテクルマ書紋ト稱スルモノコレニテ徳川氏ノ以前我國ニ於テ一時盛ナル時ニ出來シモノ

ニテ西國地方ノ藩主ニシテ之ヲ用フル家モアリ彼ノ天草一揆ノ爲徳川氏基督教ヲ禁ジタルタメ之ヲ憚リテ中頃ソノ起原ニツキテ言ヲ左右スルモノアレドモ其宗教ノ信念ヨリ出デタルコトハ明カナリ。

スベクトルノ研究ニ平行セル毛糸染

技 二 庄 司 榮

問題ニハ特ニ毛糸染メヲ擧ケタレドモ之ハ單ニ一例トシテ毛糸染メヲ用キタノデスベクトルノ研究ニ平行セル染物ト廣ク一般染物ニ適應スルノデアリマス。

サテ私共ガ染物ヲ致シマスニ當リマシテ只染料其儘ヲ使ツテ例合バ赤ノ染料ヲ以テ赤色ヲ染メ黄色ノ染料ヲ以テ黄色ヲ染ムルヤウナ簡單ナルモノナラバコレデ布片トカ糸等ヲ染メマスノニ何等カノ工夫ヲモ要シマセン、然シ此ニ二種アルヒハ三種類ノ染料ヲ交ゼテ何カ變ツタ間色ヲ染メテ見タイト思ヒマス時ニコレトコレトヲ混ズレバ如何ナル色ヲ得ルカ經驗ナキモノニハ一寸想像ガ出來難イノデアリマス。普通ハ混ゼントスル染料ヲ少シ分チ取りコレヲ湯ニ溶シテ然後種々ノ割合ニ交セテ見テ其ノ結果ノ色ノ何色ナルカヲ知ルノハコレハ誰デモ致スコトデアルト思ヒマス此ノ方法デモ大概ハ分ラヌ事モ御座イマセンガ染物ハ實際染上ツタ時ノ色ガ只肉眼で見タ時ノ色トハ

幾ラカ異ルモノデアリマス又一々混ゼテ見ルガ如キ手數ヲ煩ハサズニ一歩進ンダ手續キヲ以テスル方ナキカト考ヘマシタ所ガ理科(物理學)ヨリスベクトルニヨツテ理論上測ルコトヲ得ラレルト云フコトヲ知リマシタ此ノ仕方ハ即チ分光器ヲ以テ個々ノ染料ヲ見ルノデアリマスソウ致シマスト名々ノ染料特有ノ吸収スペクトルガ明カニ分リマスカラ其等ノ中何レト何トヲ混ズレバ其混合シタモノ、吸収セラル、スペクトルノ何ナルカヲ調べルコトカ出來マスシ又吸収セラズニ眠ニ入り來ル種々ノ有色光ノ混合結果ノ何タルカヲ理論上推測スルコトガ得ルノデアリマスシカシ理論上カクノ如クニ其結果ヲ知ル事ガ出來ルト申マシタガ其ノ理ガ實際ト果シテ合スルヤ否ヤハ實驗ヲ行ハネバ分リマセンモシ合セズトスレバ其等ノ理論ハ空論ト云ハネバナリマセン故ニ此ニ於テ實地ニ試験ヲ行ヒ見ル必要ガ起ツテ來マス此レニツイテハ其レノ諸學者連ノ研究ハアルコト、存ジマスガ私共デモ大体ハヤレスコトモナカロウト存ジマシテ理論ト實際トヲ照シ合セマシタ今次ノモノニツイテ述べ様ト思ヒマス材料トシテ酸性染料ヲ用キ其ノ中デモ、

ウールブリエー

オレンジ

ブリリアントスカレット

ウールグリーン

アシドバイオレット

以上五種ヲ以テコレヲノ間色ヲ染メマシタ。

染メ方ハ普通ノ毛糸染法ト同ジ方法デ即チ染料ヲ湯デ溶シコレニ硫酸ソーダ及ビ硫酸トヲ入レテ其ノ中ニ毛糸ヲユルク浸シ三十分乃至一時間位煮テ染メマシタ次ニスベクトルニ於テハ染料ノ溶液ヲ試験管ニ取り直視分光器ニヨリコレヲ見タノデ御座イマス、スルト、ウールブリエーハ、六色(赤樺黄綠青堇)ノ中樺黄ノ部分ガ吸収セラレ赤ハ暗赤ニ現ハレオレンジハ綠以下堇間ガ吸収セラレ赤樺黄ガ吸収セラレマセン故ニ以上ヲ混ズレバ赤ノミガ吸収セラレズニ残り他ハ皆吸収セラレト理論上考ヘラレマスカラ目ニ入り來ルモノ即チ混合ノ結果ノ色ハ吸収セラレタ部分ガ黒デ赤ガ薄暗クアリマス故ニ大体褐色ガ出來ルト思ハレマス實際ニ於テハ $1:10$ ノ割合ニ取ツテ茶色ノ毛糸ガ染メ上リマシタ次ニブリリアントスカレットハ黄以下堇間ガ吸収セラレマスコレニウールグリーンノ赤黄ノ間ノ吸収セラル、モノヲ混ズレバスペクトルノ全部吸収セラル、コトニナリキ溶液ニテ染メタモノガネヅミ色デ理論上以上三種ヲ混ズレバ全部ガ吸収セラル、コトニナリマス所以デアリマス第四ニオイテハ、アシトバイオレットノスペクトルハ赤樺黄堇ノ四色が現ハレ

